



スバイリエン州病院研修部向けスタディツアーを開催しました。

8月より始まったスバイリエン州病院における研修部の立ち上げ。(研修部立ち上げ準備の様子はニュースレター15号を参照。)
 病院長の強い希望により、2014年にいち早く研修部を立ち上げたコンボンチャム州病院を訪問し、研修部の活動
 や運営のノウハウを学ぶスタディツアーを本プロジェクトとの協働で実施しました。



スタディツアー概要

- スバイリエン側参加者：** 研修部メンバー6名
 (州保健局副局長・技術部副部長、研修部長・副部長、インストラクター代表、アドミン)
- コンボンチャム側講師：** 州病院病院長、研修部長(副院長)、小児科長(副院長)
 ※その他、コンボンチャム研修部メンバー、病院スタッフ等約30名の出席者がありました。

主な内容：

1. 研修部の立ち上げプロセス
2. 研修部の構成、機能、役割
3. 研修計画、予算計画の立て方
4. 研修運営(研修機材、資料づくり等事前準備、研修後評価)
5. コンボンチャム州早期必須新生児ケア、病院中核チームの取り組み



研修部の立ち上げプロセス、研修部の構成
 やメンバーの役割分担などに関する講義を
 行うコンボンチャム州病院院長(左端)。



コンボンチャム州病院研修部所有の参
 考書ライブラリーを見学するスバイリ
 エン州病院研修部メンバー。



コンボンチャム・スバイリエン両州関係者、
 IINEoCプロジェクトメンバーとともに記
 念撮影。

ディスカッション

講義の後に、コンボンチャム・スバイリエン州双方間で意見交換が行われました。

各州での課題点が共有され、各州にとって有意義な機会となりました。※以下、コンボンチャム=KCM、スバイリエン=SVR

- ❖ [SVR]スタディツアー後のスバイリエン州病院研修部としてのアクションは、①実施トレーニングを選定する、②実施トレーニングのコンテンツをインストラクター中心に詳細化する、③予算化の検討を行う。
- ❖ [KCM]SVR研修部では、現在各診療カテゴリごとに必要な院内研修が挙げられているが、現時点で2018年実施分だけで計23研修となっている。病院予算でこれらを全てを1年で行うのは現実的ではないため、SVRは今後優先順位づけをしていく必要があると思う。
- ❖ [SVR]トレーニングに必要な機材が揃っていないことが課題である。
- ❖ [KCM]コンボンチャム州研修部でも、州内全ての研修計画(他部局がドナー協働で進めている研修等)の情報が研修部に入ってこず、研修管理に課題を抱えている。州内の情報疎通はスバイリエン州でも留意してほしい。
- ❖ [SVR]州病院としての規模は違うものの、研修部や新生児ケア機能の話を通してコンボンチャム州病院の病院システムについて知ったことは非常に参考になった。こうやって交流できたことをきっかけに、州病院同士でネットワークを大事にしていきたい。

